

## グラジオラス

—— 発病・加害時期  
 == 発病・加害最盛期

| 作型・病害虫名                               | 月 |   |   |             |   |   |   |         |   |    |    |    |  |
|---------------------------------------|---|---|---|-------------|---|---|---|---------|---|----|----|----|--|
|                                       | 1 | 2 | 3 | 4           | 5 | 6 | 7 | 8       | 9 | 10 | 11 | 12 |  |
| 露地<br>冷蔵抑制                            |   |   |   | ●~●<br>球根植え |   |   |   | ■<br>収穫 |   |    |    |    |  |
|                                       |   |   |   | ×           |   |   |   | ×       | ● |    |    | ■  |  |
| 首腐病<br>ボトリチス<br>アザミウマ<br>ヨトウムシ<br>ネダニ |   |   |   |             |   |   |   |         |   |    |    |    |  |

### 球根腐敗病（乾腐病）

#### 留意事項

- 1 球根貯蔵中の多湿条件で発生しやすい。
- 2 ホーマイ水和剤を使用する場合、薬液の温度はなるべく10℃以下を避ける。
- 3 ホーマイ水和剤の成分チウラムの総使用回数は、1回。

#### 防除方法

- 1 健全な球根を使用する。
- 2 連作を避ける。
- 3 植付け前または、貯蔵前に下記の薬剤を施用する。
  - ・ [ホーマイ水和剤](#) M3 1  
 【200倍 30分間球根浸漬 植付前又は貯蔵前／1回】または  
 【球根重量の1.0% 球根粉衣 植付前又は貯蔵前／1回】
- 4 土壌消毒を行う。（XⅢ土壌消毒 参照）
  - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 一  
 【花き類・観葉植物 20~30kg／10a は種または植付前／1回】

### 首腐病

#### 留意事項

- 1 病原菌は土壌害虫や作業等による傷口から侵入することが多い。

#### 防除方法

- 1 健全な球根を使用する。
- 2 土壌の過湿を避ける。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 3 連作はせず、他作物との輪作を行う。
- 4 被害株はまわりの土とともに、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)
  - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 —  
【花き類・観葉植物 20~30kg/10a は種または植付前/1回】

## ボトリチス病

### 留意事項

- 1 球根貯蔵中の高温多湿条件で発生しやすい。
- 2 自家栽培球を使用する場合は、球根堀上げ後の乾燥を十分に行う。

### 防除方法

- 1 健全な球根を使用する。
- 2 連作はせず、他作物との輪作を行う。
- 3 施肥基準を守り窒素過多にならないようにする。
- 4 排水を良好にする。
- 5 発病株は早期に掘り取り処分する。
- 6 初発時に重点を置いて下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ポリオキシシンAL水溶剤](#) 19 【2500倍 発病初期/8回】

## アザミウマ類

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 ほ場内外の雑草を除去する。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ディアナSC](#) 5  
【花き類・観葉植物(除りんどう) 2500~5000倍 発生初期/2回】
  - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【花き類・観葉植物 2000倍 発生初期/5回】
  - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4A  
【花き類・観葉植物(除ストック、りんどう) 2000倍 発生初期/5回】
  - ・ [スカウトフロアブル](#) 劇 3A 【2000倍 -/5回】

## ヨトウムシ類

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

行う。

### 防除方法

- 1 施設栽培では開口部に寒冷しゃ等を張り、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
  - ・ [アファーム乳剤](#) **6** 【花き類・観葉植物 1000倍 発生初期／5回】
  - ・ [コテツフロアブル](#) **劇 1 3**  
【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2000倍 発生初期／2回】
  - ・ [プレオフロアブル](#) **UN**  
【花き類・観葉植物 ハスモンヨトウ 1000倍 発生初期／4回】
  - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) **2 8**  
【花き類・観葉植物(除きく、りんどう) ハスモンヨトウ 2000倍 発生初期／4回】

## ネダニ類

### 留意事項

- 1 ネダニ類の寄生が疑われる球根(萎縮、腐敗等)は、植付けしない。また、植付け後に気づいた場合(不発芽、生育遅延等)は掘り取って処分する。
- 2 前年に多発したほ場、前作がねぎ、たまねぎ、チューリップなどのほ場では植付けを避ける。

### 防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 pHが5~6の酸性土壌では発生しやすいため、土壌pHを矯正する。
- 3 健全な球根を使用する。
- 4 収穫残渣は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 植付前に下記の薬剤を施用する。
  - ・ [ネマキック粒剤](#) **1 B**  
【花き類・観葉植物(除きく) 20kg／10a 全面土壌混和 植付前または定植前／1回】

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。